

【古典文法 助動詞「ぬ」識別①】

問 次の文中にある傍線部の助動詞の意味を答えなさい。

- | | | |
|------|------|-----|
| (11) | (6) | (1) |
| (12) | (7) | (2) |
| (13) | (8) | (3) |
| (14) | (9) | (4) |
| (15) | (10) | (5) |
- ① 山にはるばると入りて、高き山の峰の、下り来べくもあらぬに、置きて逃げて来ぬ。（伊勢物語）
- ② 逢ふことも涙にうかぶ我身には死なぬくすりも何にかはせむ（竹取物語）
- ③ 別れ難く思ひて、日しきりにとかくしつつ、ののしるうちに、夜更けぬ。（土佐日記）
- ④ これに候ふ巻き物のうちに、さりぬべきもの候はば、一首なりとも御恩をかうぶつて、（平家物語）
- ⑤ 額をつきし薬師仏の立ちたまへるを、見捨て奉る悲しくて、人知れずうち泣かれぬ。（更級日記）
- ⑥ 童まで酔ひ痴れて、一文字をだに知らぬ者、しが足は十文字に踏みてぞ遊ぶ。（土佐日記）
- ⑦ 人のそしりをもえ憚らせ給はず、世のためしにもなりぬべき御もてなしなり。（源氏物語）
- ⑧ と申しければ、目には見えぬものの、戸をおしあけて、御後ろをや見るらせけむ、（大鏡）
- ⑨ またその頃よりは殊に歌のさまも悪しうなりぬ。（国歌八論余言）
- ⑩ 四十あまりの春秋を送れる間に、世の不思議を見ること、ややたびたびになりぬ。（方丈記）
- ⑪ 早く往なむとて、「潮満ちぬ。風も吹きぬべし」とさわげば、船に乗りなむとす。（土佐日記）
- ⑫ 真名書きちらして侍るほども、よく見れば、まだいと足らぬこと多かり。（紫式部日記）
- ⑬ 河内国にこの聖の行ふ山の中に飛び行きて、聖の坊の傍に、どうと落ちぬ。（宇治拾遺物語）
- ⑭ 寝べきものとも思いたらぬを、「うたて、なにしにさ申しつらむ。」と思へど、（枕草子）
- ⑮ 物は少し覚ゆれど、腰なむ動かれぬ。されど、子安貝をふと握り持たれば、（源氏物語）

【古典文法 助動詞「ぬ」識別①】解答

問 次の文中にある傍線部の助動詞の意味を答えなさい。

① 山にはるばると入りて、高き山の峰の、下り来べくもあらぬに、置きて逃げて来ぬ。（伊勢物語）

：未然形に接続しているため「打消」と判断する。

② 逢ふことも涙にうかぶ我身には死なぬくすりも何にかはせむ（竹取物語）

：未然形に接続しているため「打消」と判断する。

③ 別れ難く思ひて、日しきりにとかくしつつ、ののしるうちに、夜更けぬ。（土佐日記）

：連用形に接続しているため「完了・強意」、動作が終わったことを表すので「完了」と判断する。

④ これに候ふ巻き物のうちに、さりぬべきもの候はば、一首なりとも御恩をかうぶつて、（平家物語）

：連用形に接続しているため「完了・強意」、推量の「べき」があるため「強意」と判断する。

⑤ 額をつきし薬師仏の立ちたまへるを、見捨て奉る悲しくて、人知れずうち泣かれぬ。（更級日記）

：連用形に接続しているため「完了・強意」、動作が終わったことを表すので「完了」と判断する。

⑥ 童まで酔ひ痴れて、一文字をだに知らぬ者、しが足は十文字に踏みてぞ遊ぶ。（土佐日記）

：未然形に接続しているため「打消」と判断する。

⑦ 人のそしりをもえ憚らせ給はず、世のためしにもなりぬべき御もてなしなり。（源氏物語）

：連用形に接続しているため「完了・強意」、推量の「べき」があるため「強意」と判断する。

⑧ と申しければ、目に見えぬものの、戸をおしあけて、御後ろをや見るらせけむ、（大鏡）

：未然形に接続しているため「打消」と判断する。

⑨ またその頃よりは殊に歌のさまも悪しうなりぬ。（国歌八論余言）

：連用形に接続しているため「完了・強意」、動作が終わったことを表すので「完了」と判断する。

⑩ 四十あまりの春秋を送れる間に、世の不思議を見ること、ややたびたびになりぬ。（方丈記）

：連用形に接続しているため「完了・強意」、動作が終わったことを表すので「完了」と判断する。

⑪ 早く往なむとて、「潮満ちぬ。風も吹きぬべし」とさわげば、船に乗りなむとす。（土佐日記）

：連用形に接続しているため「完了・強意」、推量の「べき」があるため「強意」と判断する。

⑫ 真名書きちらして侍るほども、よく見れば、まだいと足らぬこと多かり。（紫式部日記）

：未然形に接続しているため「打消」と判断する。

⑬ 河内国にこの聖の行ふ山の中に飛び行きて、聖の坊の傍に、どうと落ちぬ。（宇治拾遺物語）

：連用形に接続しているため「完了・強意」、動作が終わつたことを表すので「完了」と判断する。

⑭ 寝べきものとも思いたらぬを、「うたて、なにしにさ申しつらむ。」と思へど、（枕草子）

：未然形に接続しているため「打消」と判断する。

⑮ 物は少し覚ゆれど、腰なむ動かれぬ。されど、子安貝をふと握り持たれば、（源氏物語）

：係助詞「なむ」があるため、「ぬ」が連体形と判断でき、「打消」だとわかる。

⑪ 強意	⑥ 打消	① 打消
⑫ 打消	⑦ 強意	② 打消
⑬ 完了	⑧ 打消	③ 完了
⑭ 打消	⑨ 完了	④ 強意
⑮ 打消	⑩ 完了	⑤ 完了